

TOUR DE HOKKAIDO 2005 NEWS

Prologue 2005 年 9 月 14 日発行

区間個人順位

順位	名前	チーム	タイム
1	盛 一 大	愛 三 工 業	5:52.02
2	マーク・A・ウォルターズ	カ ナ ダ	+6.52
3	西 谷 泰 治	愛 三 工 業	+6.62
4	米 山 一 輝	ラ バ ネ 口	+8.41
5	エディー・ラッティ	N I P P O	+8.78
6	コーリー・レンジ	カ ナ ダ	+8.87
7	岡 崎 和 也	N I P P O	+8.93
8	マリウス・ウィズiak	N I P P O	+11.21
9	ジェフ・シェルトビトフ	カ ナ ダ	+11.46
10	ジャン スンジャ	韓 国	+11.80
11	広 瀬 敏	愛 三 工 業	+13.09
12	橋 川 健	キナンCCD	+14.86
13	廣 瀬 佳 正	シ マ ノ	+16.90
14	ヤム ジュンファン	韓 国	+17.52
15	田 代 恭 崇	プリチストン・アソカー	+17.91

個人総合時間順位

順位	名前	チーム	タイム
1	盛 一 大	愛 三 工 業	5:52
2	マーク・A・ウォルターズ	カ ナ ダ	+0:06
3	西 谷 泰 治	愛 三 工 業	+0:06
4	米 山 一 輝	ラ バ ネ 口	+0:08
5	エディー・ラッティ	N I P P O	+0:08
6	コーリー・レンジ	カ ナ ダ	+0:08

団体総合順位

順位	チーム名	タイム
1	愛 三 工 業	17:55
2	カ ナ ダ	+0:07
3	N I P P O	+0:09
4	韓 国	+0:29
5	シ マ ノ	+0:38
6	プリチストン・アソカー	+0:42
7	ラ バ ネ 口	+0:42
8	キナンCCD	+0:44
9	ミヤタ・スバル	+0:54
10	鹿屋体育大学	+1:06
11	ド イ ツ	+1:09
12	ロ シ ア	+1:18
13	明 治 大 学	+1:25
14	中 央 大 学	+1:34
15	日 本 大 学	+1:38

個人ポイント賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	盛 一 大	愛 三 工 業	10
2	マーク・A・ウォルターズ	カ ナ ダ	9
3	西 谷 泰 治	愛 三 工 業	8
4	米 山 一 輝	ラ バ ネ 口	7
5	エディー・ラッティ	N I P P O	6
6	コーリー・レンジ	カ ナ ダ	5

Prologue 西谷の3連覇を阻止したのはチームメイトで大学の後輩、盛一大（愛三工業）

9月14日、第19回ツール・ド・北海道が帯広市でのプロローグを皮切りにスタートした。初日のプロローグは午後1時スタートで、98人のライダーは1分間隔で出走。天候は朝から雨が降り続き、気温の低い中行われた。コースは帯広市の十勝川河川敷の4.6kmだ。

今日の注目選手は、昨年、一昨年とツール・ド・北海道のプロローグを2連覇中の西谷泰治（愛三工業）。そして、西谷のチームメイトで日本大学時代の後輩でもある盛一大の2人。

まず、14番スタートのエディー・ラッティ（NIPPO）が暫定トップタイムとなる6分00秒80のタイムを出し、トップに立った。ほとんどの選手は6分30秒前後のタイムで、なかなかラッティを超えるタイムが出ない。2番手も6分10秒あたりで苦戦していたが、37番スタートのヤム・ジュンファン（韓国）が6分9秒台でゴール、暫定2位につけた。続いてジェフ・シェルトビトフ（カナダ）が6分3秒48でさらに暫定2位の座を奪った。

さらに1999年に個人総合優勝を果たしている橋川健（キナンCCD）が6分6秒88で暫定3位となった。

55番目に戦前の予想でも優勝候補だった盛が登場。なんとこれまでの記録を大幅に更新



帯広市街にほど近い十勝大橋のたもとで開催されたプロローグ。スターターを務めたのは帯広市長の砂川敏文氏。第一走者はエンリコ・ツィン（ドイツ）

する5分52秒02でゴール。場内アナウンスにも一層熱が入る。

TTに強い岡崎和也（NIPPO）は6分0秒95で僅差の暫定4位、続いて2003年に優勝している広瀬敏（愛三工業）が6分5秒11。

昨年個人総合時間5位のパクサンバク（韓国）は6分11秒46とタイムが伸びない。このまま盛のベストタイムが確定する気配が濃厚になる。



ほとんどアップダウンのない河川敷のサイクリングロードを利用してコースが設定されたが、あいにくの雨とときどき変わる風向きが選手を苦しめた

カナダの最終走者のマーク・ウォルターズが6分を切る5分58秒54でゴールし、さらに米山一輝（チームラバネ口）が6分00秒43を叩き出した。3連覇がかかった西谷は、スピードにのりきれず5分58秒64で3位に終わった。結局、ツール・ド・北海道の行方を占う初日を制したのは盛、2位ウォルターズ、3位西谷という結果となった。実業団1年目の盛だが、貫禄ある勝利だった。

1st.stage 今大会、最も注目されるステージ。好調、愛三工業はどんな走りを見せるか？

北海道東部の街、帯広市は豚丼が名物。お昼に食べた人も多かったのでは？

今年のツール・ド・北海道は第1ステージから厳しい山岳ステージとなっている。山岳ポイントも今大会最も多く設定されている。山岳賞ジャージの争いでも重要なステージになっている。

帯広市中央公園をスタート後、十勝平原を一望する白樺峠のヒルクライム、さらに幌鹿峠を上る。フィニッシュ地点の阿寒湖畔スキ場まで上りがあり、このステージの終盤が今大会最も重要な勝負どころとなっている。上りでのフィニッシュとなるので個人総合時間成績でのタイム差が大きく開く可能性がある。ちなみにフィニッシュ地点の阿寒町は、十勝川温泉などもあり、レース後の選手の疲れた

身体のリフレッシュに役をかいそうだ。

レースはリーダージャージを着る盛一大を中心にレースが展開されることになる。西谷泰治はプロローグ3年連続優勝を逃したが、チームとしては3年連続プロローグを制し、リーダージャージを獲得した。盛はライバルに大きな差をつけたが、愛三工業は過去2年、翌日にジャージを失っている。盛は第1ステージでどんな走りを見せられるのだろうか？

今年の愛三工業は盛一大と2003年度個人総合時間優勝を果たした広瀬敏が加入したことで、選手層に一層厚みが出た。ナショナルチームとしても活躍した新保光起、西谷泰治、別府匠も健在。団体総合でも優勝候補の筆頭のチームがどのようなレースを組み立てるかに注目したい。



実業団1年目にしてマラカイトジャージに袖を通した盛一大（愛三工業）は満面の笑みで記者会見に応じた